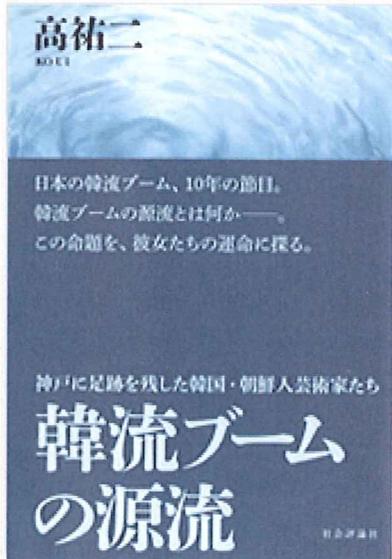


## 書評

## 『韓流ブームの源流』

山根 俊郎

6月初旬に社会評論社から『韓流ブームの源流』という本が送られてきた。「献呈」とあり「タダならありがたい」と本を見て驚いた。「第二章 小畠実が神戸で録音した朝鮮解放歌謡」のなかでP55に『独立の朝』の譜面が掲げられて、説明には「独立の朝」譜面『カラスよ 尻を見て啼くな 朝鮮の人民解放歌謡』山根俊郎編著（長征社、1990年）より。)とあり、私が大昔に書いた本を引用していただいていた。とてもありがたかった。



## 韓流ブームの源流

神戸に足跡を残した韓国・朝鮮人芸術家たち 高祐二

価格1200円+税 発行 社会評論社

発行日 2012年6月5日 四六判並製 160頁

第一章 神戸を魅了した崔承喜の舞

第二章 小畠実が神戸で録音した朝鮮解放歌謡

第三章 神戸を訪れた往年の大スター文芸峰

第四章 ザッツ・エンター・ティメント～解放前、海を渡った朝鮮の芸能人たち～

第五章 韓流の光と影

世界的な舞姫 崔承喜（チエ・スヒ）と在日コリアンの往年の演歌歌手小畠実（康永詰 カン・ヨンヨル）そして北朝鮮に行った映画女優の文芸峰（ムン・イェボ

ン）の3名の有名な芸術家と地元神戸を（無理にでも）結びつけた秀作である。それも今、流行りの「韓流ブームの源流」という切り口で見事に描き出している。第五章 韓流の光と影は、兄の高東元（コ・ドンウアン）氏が執筆している。



6月30日出版記念パーティで著者の高祐二さんに花束を贈る足立さん（足立さんは崔承喜に詳しい）出版記念パーティで著者の高祐二（コ・ワイ 1966年生）さんご本人にお会いして本にサインを貰った。とても好青年でビールを運んだり、カメラを撮ったりとスタッフ並みの腰の低さであった。兵庫朝鮮関係研究会の会員であり、共著『近代の朝鮮と兵庫』や『兵庫の大震災と在日韓国・朝鮮人』などを出版している。友人である兵朝研の徐根植（リ・クンシク）代表も「山根さん！この本は、ええ本ですよ！絶対売れますよ！」と今回ご自分が出された本よりも勧めていた。兵朝研は故金慶海（キム・ヨンヘ）さんの大らかな人柄のお陰で高祐二・東元兄弟のような立派な研究家を輩出する優良研究団体です。なおも酒の勢いも手伝い高祐二さんに突っ込んで尋ねると、なんと大学生の時に甲南大学で滝沢秀樹教授のゼミを受けていたとのこと！！滝沢先生が誰ですか？韓国大衆歌謡の好著『ソウル讃歌』（84年田畠書店）があり、88年夏に神戸学生青年センターで名古屋の朴燦鎬（パク・チャンホ）先生と私と3人で「韓国歌謡のトークセミナー」も開催した。88オリンピックの頃に私と2人で三宮の韓国スナック、クラブを総ナメ（？）に飲み歩いた仲ではないですか？高祐二さんが滝沢教授とご縁があったとは！！！みなさま。ぜひ、この本を買って読んでください。おもしろいです。（終）